

加藤 保博

吉備路郷土館の今後の活用について

問 ①岡山県財政構造改革プランの最終方針で、吉備路郷土館の活用策を検討し本市へ譲渡するのかが、だれが検討するのかが、譲渡条件など、どこまでこの内容を把握しているのか。
②譲渡条件によっては受け入れに難色を示す場合もあるが、拒否した場合、建物はどうなるのかなど、今後

のあり方を含めて市の考え方を聞きたい。また、周囲のロケーションが最高という中で、この建物は市立美術館として活用してはどうか。

答 ①県は本市の意向をよく踏まえて施設の活用を検討し、平成22年度に市へ譲渡するというところであり、施設は無償譲渡、土地は無償貸与と聞いている。



周囲のロケーションが抜群の県立吉備路郷土館。市への譲渡が検討されている

②施設の譲渡は拒否しない方針である。活用方法も市に任せると言われており、特別な条件もつけられないということである。今ある形態のまま継承するのは管理や経費面で非常に難しいので、今後は提案をいただいた美術館としての活用など、有効利用について議会や関係団体と協議しながら、詳細につ

いて検討していきたい。(市長)

普通財産の見直しについて

問 ①行政目的として有効利用されていない普通財産の現在の状況はどうか。
②普通財産の維持管理費もかかっており、財政面からみても遊休地等で売却できるものは処分したかどうか。

答 ①普通財産の保有合計では、土地は392筆で約178万㎡、建物は17箇所約6200㎡である。建物を撤去し更地で保有しているのは、旧消防庁倉用地、旧中央保育所用地などがあるが、建物が残っている状況のものは、旧泉浄化センター、旧雪舟荘などがある。財産の有効利用の観点から駐在所用地など約1万1600㎡を17団体に有償で貸し付けており、年間722万円の収益をあげている。また、社会福祉協議会や町内会に対し、倉庫や集会所用地として公共目的で無償貸付も行っており、土地は36団体で約1万40

赤澤 康宏

吉備路マラソンについて

問 以前評価の高かった吉備路マラソンの今回の復活には期待しているが、コース変更もあり、人手も必要と考える。準備期間が1年足らずで本間に間に合うのか、受け入れ態勢ができていないのか、不安視している。現時点での進捗状況と当日のボランティアの規模、沿道サポートはどのように考えているのか。

答 コースにしても関係機関との折衝に時間がかかり、準備が円滑に進んでいないと心配をかけているが、一生懸命にやっている。申込用紙やポスターも頒布してムードを高めていきたい。今後は推進委員会を結成し、ボランティアや運営面を考えていきたい。

極的に売却を進め、今後議会と相談しながら売却処分をしていきたい。(市長)

出場者の募集もインターネットや陸上雑誌など様々な方法で宣伝し、もてなしのよいマラソンをつくってきたい。(市長)

子育て王国そうじゃ・観光プロジェクトについて

問 市長のひらめきで観光プロジェクト、子育て王国を企画考案し、全国発信を掲げているが、市民は細部まで理解していないように思う。子育て王国号の展示、インパクトのある配色を施したカウンターへの配置物、玄関掲示板に市の取り組みを表示するとか、担当課前に内容等を表記して市民に伝えるなど、市を挙げてアピールすべきと考えるが、今後の方針はどうか。

答 子育ての目標は、人間を愛し、地域を愛する人のジャンルで県下一位を

目指しているこうとする熱意や愛情をもって、みんながひとつの目標に向かって頑張れる子育て王国をつくっていく。カウンターへのPR用物品、子育て王国号の玄関前配置やロゴマークの徹底、こんには赤ちゃん事業、学校給食での食育推進、スーパーバイザー制度など様々な事業を組み合わせながら、連携を取り合い、子ども本意となる内容を充実して、キャッチフレーズばかりでない中身の濃い子

育て王国をつくっていききたい。観光プロジェクトも、全国発信、質の高い観光客の増加を目指して、今回観光宣言を作成し、また8分科会で知恵を出し合い、形をつくっていく。双方とも市民に伝えていくことは非常に大事であるので、広報紙等を活用してさらにPRしていきたい。(市長)



寄贈された子育て王国号。こんには赤ちゃん事業に活躍

津 神 謙太郎

耐震改修について

問 地震が発生したときの避難場所や避難路、救急活動、緊急物資の輸送、ライフラインの確保等、日ごろから対策を考え、準備しておくなければならないが、避難場所への道として使用される重要な道、橋について耐震対策の必要な危険箇所がどの程度あるのか。今後、どのように進めていくのか。また、中山間地域への道は、地震の際、地すべり、がけ崩れ等があると、早い時期に計画を立て整備してほしいがどうか。

答 生命、生活を支援する道路整備を進めていきたい。また、橋りょう長寿命化修繕計画を策定し、15m以上の構造のもの40箇所に2年をかけて耐震調査を実施し、その結果をもって具体的な修繕計画を今後進めていきたい。落石の危険性のある道路については、道路パトロールで点検を

渡邊 繁雄

市長の施政方針について

問 ①ガラス張り市長室で、市長の政治理念が各部に浸透しているかと考えたとき、現段階の部長マニフェストはハードルが低いように思うが、果たして政治理念と一致しているのか。
②高齢者や弱者の日常生活の足の確保について、決断する前から事前に議論して、議員にも宿題を出して地域とのキャッチボールをさせ

る中で結論を出せると思うがどうか。

③マニフェストで土木担当員の要望への対応は、現状では十分ではないと思うがどうか。

④医療問題にかかると対応は、市民の要望を受け入れてもらうため、議会と前もって相談した上で医師会と協議したらよいと思うがどうか。また、医師会との話の進捗状況はどうか。

答 ①市民が考え実行していくまちをつくるため、職員が考え実行していく最

先端の現場がガラス張り市長室の中にある。これからの地方自治は、職員のアイデアや発想を積み上げたものを政策にするのが強い行政と思うので、部長マニフェストは政治理念と一致している。ただ、初回とあってはややハードルが低い内容の部分もある。2年目以降、ハードルを高めていきたい。②地域のお年寄りの足の確保は、全域網羅的なものになるとは限らないが、4月からの試行を目指して関係機関や地域と相談をし、議会とも協議したい。

③予算が少ないために土木担当員が役割を果たせず肩身の狭い思いをしているので、できる限り増額したいが、確かに少額であることは事実。この部分については減額しない姿勢を貫いて、地元の要望にできる限りこたえていきたい。

④市民の医療ニーズに対応するため、今までの事業を連携強化し、横断的相互体系をつくること。その柱として輪番制在宅方式による夜間医療体制、第一次救急医療機関による24時間体制医療、ドクターヘリ等による第二次、第三次救急医療機関との連携による体制の整備、無医地区、中山間地域を含め高齢者等の足の確保を図っていききたい。医師会とは、救急告示指定医療機関による時間初期救急診療、内科系、外科系の夜間輪番制在宅方式による初期急患診療について承諾をいただいている。さらにこれから議会に医療問題の進捗状況を報告し、いろいろアドバイスを聞きながら医師会と細部を詰めていきたい。(市長)